

せたな町1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」は、1人1台端末と高速ネットワークを活用し、児童生徒一人ひとりの個性と能力を最大限に引き出す、未来志向の学びを実現します。

AIによる学習支援やオンラインコラボレーションを通して、生徒は自分のペースで学び、多様な仲間と協力し、創造性を育みます。

プログラミングやデータ分析など、これからの社会で必要とされるスキルを習得することで、未来を担う人材育成を目指します。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の実現に向け、通信ネットワーク環境の整備を進め、1人1台端末や大型モニターの整備、個別最適な学びの実現に向けた「AIDRIL」の導入等を実施してきた。

その結果、令和の日本型学校教育の実現に向けて、1人1台端末を活用して情報を収集したり、考えを相手に発信したりするなど、知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力の育成を図ることができた。

また、コロナ禍において児童生徒の学びを止めないため、1人1台端末を活用した遠隔でのオンライン学習等を実施することにより、児童生徒の学習を保障することができた。

通信ネットワーク環境については、時間帯や全校同時利用による通信速度の低下がみられるため、早急な対応を実施する。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想第2期で導入する1人1台端末については、第1期の実態を踏まえながら、町内の全児童生徒及び教員に配備し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、資質・能力の向上、情報活用能力の育成を図るために活用する。

なお、GIGAスクール構想第1期で導入した利用可能な1人1台端末については、町内各校の教員等に配備し、指導体制の整備と効果的な授業展開を図る。

(1) 個別最適化された学び

① パーソナライズドラーニング

1人1台端末を用い、児童生徒の学習進度や理解度に合わせて学習内容を調整。AIを活用した学習支援システム導入により、個別の課題や興味関心に合わせた学習を提供。

②オンデマンドラーニング

時間や場所に縛られない学習を実現。動画教材やオンライン学習コンテンツを活用し、児童生徒は自分のペースで必要な情報を取得可能。

③個別学習データ分析

1人1台端末のログデータや学習成果を分析し、児童生徒の強みや弱みを把握。学習内容の改善や個別指導に活用。

(2) 協働的な学び

①グループワークの進化

オンラインコラボレーションツールを活用し、遠隔地にいる児童生徒同士でも共同作業や議論が可能。多様な視点を取り入れ、より深い学びを実現。

②学びの共有とフィードバック

1人1台端末で作成した作品や発表資料を簡単に共有し、児童生徒同士でフィードバックし合う環境を構築。プレゼンテーションスキルやコミュニケーション能力向上に貢献。

(3) 未来社会に対応する能力育成

①プログラミング教育の強化

1人1台端末と高速ネットワーク環境を活用し、プログラミング学習をより実践的に行う。論理的思考力や問題解決能力を育成。

②データ分析・活用能力育成

統計ソフトやデータ分析ツールを用い、データ収集・分析・可視化を通して、データに基づいた意思決定能力を育成。

③デジタルリテラシーの向上

情報収集、情報発信、情報倫理など、デジタル社会で必要なスキルを習得。批判的思考力や情報活用能力を育成。

(4) 教員の支援と研修

①デジタルツールの活用研修

教員向けに、1人1台端末やオンライン学習ツールを活用した指導方法に関する研修を実施。効果的な授業展開や児童生徒への個別指導を支援。

②ICT活用に関する指導体制の構築

校内にICT専任教員やサポート体制を整備し、教員のICT活用を支援。教員のICT活用スキル向上のための研修体制を強化し、デジタルネイティブ世代との世代間ギャップを解消。

③児童生徒主体の学びを促進する研修

教員が児童生徒の主体性を引き出し、協働的な学びを促進するための研修を実施。